

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立木川南小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区 名	淀川区
学 校 名	大阪市立木川南小学校
学 校 長 名	池田 健一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和8年4月に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・ 国語
- ・ 算数

(2) 質問調査

- ・ 児童に対する調査
- ・ 学校に対する調査

3 調査の対象

- ・ 国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・ 大阪市立木川南小学校では、第6学年 21名

令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立木川南小学校の結果概要

平均正答率では、国語、算数共に全国平均・大阪府平均を大きく上回った。具体的には、国語は全国平均より9.1ポイント、大阪府平均より11ポイント上回り、算数は全国平均より9.6ポイント、大阪府平均より10ポイント上回った。また、無回答率では、国語は全国平均より1.6ポイント、大阪府平均より1.0ポイント低く、算数は全国平均より2.5ポイント、大阪府平均より2.1ポイント低かった。基礎・基本の定着を徹底したことで、無回答率が低くなったことが、全国平均・大阪府平均を大きく上回った要因である。質問紙調査では、学習に取り組む姿勢が培われ、生活習慣がしっかり身についていることがわかった。学校生活を落ち着いて過ごし、学習に集中できる環境が整っていることが大きな要因である。また、家庭学習の習慣も身についており、日々の積み重ねが結果に現れている。今後はこれまでの取組を継続するとともに、OENと連携した探究型・体験型学習を推進することで、さらなる学力向上を目指す。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】すべての項目で全国平均・大阪府平均を大きく上回る成果を収めた。基礎となる漢字や語彙の定着にとどまらず、文章の意図を正確に読み取り、自らの考えを根拠とともに記述する力が伸びた。また、情報を整理・比較して考えをまとめ、文脈に応じた適切な語彙の活用において、日頃の学習の成果が表れた。そのほか、「読書活動の推進」や「学習者用端末を活用した協働的な学習や意見交流」の成果が着実に表れている。

【算数】国語科と同様に、すべての項目で全国平均・大阪府平均を大きく上回る成果を収めた。計算や公式の理解といった基礎・基本の定着はもちろんのこと、図表やデータから必要な情報を読み取り、論理的に立案・解決する力がついた。また、学習者用端末を用いたデジタル教材での個別最適な演習や、解き方のプロセスを友だちに説明し合う授業改善の成果が表れている。今後も、算数の面白さや日常生活とのつながりを実感できるよう、更なる学びの質の向上に努める。

質問調査より

情緒・生活面では、自己肯定感や信頼関係に関する課題が見られる。「自分にはよいところがある」に対する否定的な回答（「あまり」「全く」の合計）は29.1％であり、大阪府（13.4％）や全国（14.1％）と比較して高い割合となっている。「学校に行くのが楽しい」で「当てはまる」と答えた児童は29.2％（府48.3％、全国37.7％）にとどまり、「困りごとや不安を大人に相談できる」でも「当てはまる」が16.7％（府41.9％、全国33.9％）と低水準である。

一方で授業・学習面では、非常に前向きな成果が示されている。「友達との話し合いによる考えの深まり」では「当てはまる」が58.3％（府40.3％、全国43.5％）と大きく上回った。「総合的な学習での課題解決」も肯定割合が79.2％に達している。さらに「ICT機器を用いた情報整理・発表」でも「当てはまる」が45.8％（府35.7％、全国39.7％）と高く、デジタルを活用した探究学習に自信を持っている。今後は、授業で発揮されている協働性やICTスキルを承認・評価することで自己有用感を高め、安心して相談できる環境づくりを進めることを期待する。

今後の取組（アクションプラン）

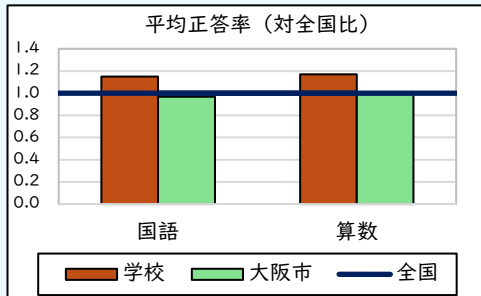
全国・府の平均を大きく上回る高学力や、ICTを活用した協働学習の成果という強みを伸ばすため、学習者用端末を活用した探究学習や、解き方のプロセスを友達と説明し合う授業改善を継続・強化していく。児童が主体的に思考・表現する機会を増やすことで、基礎・基本の定着に加え、更なる学びの質の向上を図っていく。

一方で、「自分にはよいところがある」と感じる割合の低さや相談しにくさといった自己肯定感や情緒面の課題克服に向け、学習における話し合い活動やデジタル表現で発揮された児童の協働性・スキルを教職員が具体的に承認・評価する機会を広げる。成功体験を自己有用感の向上につなげるとともに、日頃の温かい声かけや面談を通じ、困りごとを安心して相談できる環境を構築する。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要

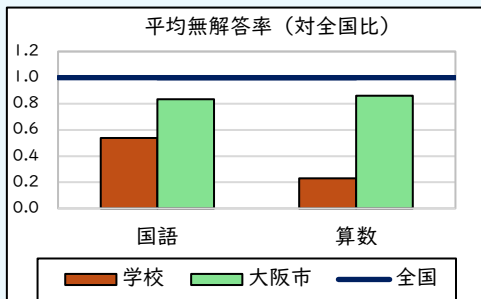
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	70	66
大阪市	59	56
全国	60.9	56.4



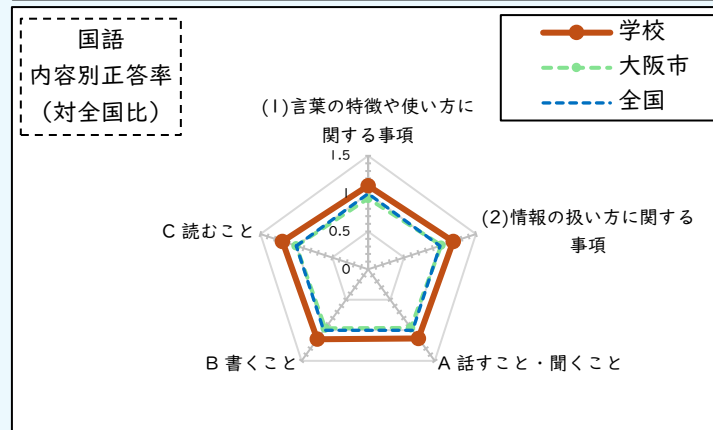
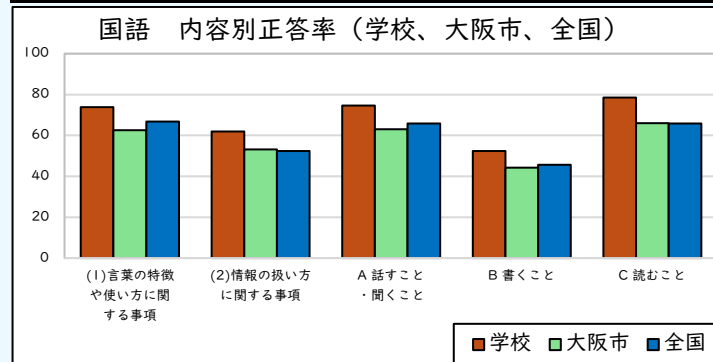
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	1.8	0.7
大阪市	2.8	2.8
全国	3.4	3.2



【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	4	73.8	62.5	66.8
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	61.9	53.2	52.3
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	74.6	63.1	65.8
B 書くこと	2	52.4	44.2	45.7
C 読むこと	2	78.6	66.0	65.9



【算数】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	68.5	61.2	61.1
B 図形	4	66.7	54.5	55.3
C 測定	1	85.7	77.5	78.1
C 変化と関係	3	58.7	40.3	41.1
D データの活用	4	56.0	48.8	48.6

